

多様性展示が新しくなりました！

おにし わたる
大西 亘 (学芸員)

常設展示室一階には、「多様性をもたらしたもの」という展示があります(通称、「多様性コーナー」)。2012年度末に実施した「展示を見やすくする工事」を機に、内容を大幅に刷新しました。このコーナーでは、生物多様性や生物多様性が生まれるしくみの一端を標本とともに解説しています。多様性が生まれるしくみについては、これまでの展示にもあった3つのサブテーマ展示のうち、「自然選択」「種分化」の2つのサブテーマについて、今回、展示標本、解説ともに全く新しいものに変更しました。

同時に、生命を考える展示室の最後を飾る展示として、新しく「生き物どうしの関わり」のサブテーマ展示を製作しました。ここでは、生き物どうしの関係性が、

それぞれの生き物のかたちやふるまいへ影響を与えている点に焦点を当てています。地球上の様々な生き物が、それぞれの関わり合いによって、より一層複雑で多様な環境を作り出し、それぞれの進化の道すじをたどってきたことが感じられるように展示を製作しています。

ところで、生き物どうしの関わりがもたらす生物の進化は、研究者たちからも日夜熱い視線が注がれ続けている分野です。そのため、日々新たな研究成果が発表されています。「多様性コーナー」では、より新鮮な情報を発信しやすくするために、展示更新がしやすいよう展示ケースを工夫しました。例えば、「生き物どうしの関わり」の展示場の壁には貼り替えが可能な解説パネルを採用しまし

た。また、ある程度大きいものも展示できるアクリル標本ケースは、子どもたちが顔を近づけられる高さにしました。こうした展示場の特徴を生かして、生き物どうしの関わりが作り出した自然史の不思議から、来館者が身近に感じられる内容を選び、最新の研究成果に基づく解説とともに今後も紹介していく予定です。また、この展示は異なる分類群の生き物たちを小さな空間に凝縮しています。そのため専門分野の異なる複数の学芸員(今回は6名)が協力して展示を製作している点も特徴です。第一弾は、様々などんぐりと、どんぐりを利用する生き物たちの関係を紹介しています。ぜひみなさんでご覧ください。

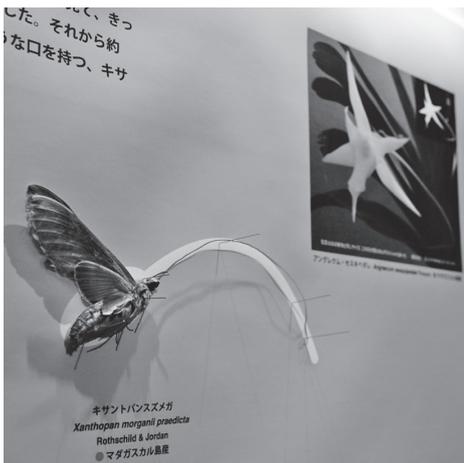


図1 (左)「選択」ながーい蜜壺(みつづぼ)のような部分をもつランの花と、ながーいストローのような口(口吻)をもつガの関係を紹介。

図2 (右)「種分化」西南日本に見られるトンボ、カラスヤンマの仲間の地理的種分化を紹介。

図3 (左下), 図4 (右下)「生き物どうしの関わり」どんぐりを利用する生き物(菌類, 昆虫, 鳥, 哺乳類)を集めました。私たちの身近にも、どんぐりに関わるこんな生き物がいたのか!と驚きです。

